

【中期目標期間（見込）評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	中期目標を上回っている	目標の達成状況が100%超
III	おおむね中期目標どおり達成している	目標の達成状況が90%超100%以下
II	中期目標を下回っている	目標の達成状況が60%超90%以下
I	中期目標を大幅に下回っている	目標の達成状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県立多治見病院

項目No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●)、法人の自己評価年度計画に係る業務実績、法人の自己評価)		評価委員会の検証																													
		自己評価	論点	検証(案)																													
01	<p>9 医療安全対策の充実 医療安全部におけるインシデントレポートの集積分析及び事例の検討、アクシデントに対する迅速な対応、及びリスクを回避するための方策の検討をし、医療安全対策の徹底、意識の醸成、情報の共有化並びに医療事故の再発防止及び予防の徹底を図る。</p> <p>10 院内感染防止対策の確立 毎月感染防止委員会を開催して、感染の状況や感染対策活動の評価等を行うとともに、感染防止研修会の実施や院内感染防止マニュアルの周知徹底・啓発を図る。 また、ICD（感染症対策専門医）及びICN（感染管理看護師）の資</p>	<p>インシデントレポートの集計、分析を行い、医療安全管理委員会において再発防止策を検討した。その検討結果に基づき管理会議、医局会、看護部安全対策委員会等で注意喚起、周知を行った。 コメディカル各部門の技師長、副技師長クラスを医療安全部への配置する組織再編を行い、カンファレンス（週1回）や院内ラウンド（月1回）、医療安全講演会開催（年2回）等、精力的な活動を実施した。 平成30年度には、毎月第1月曜を「医療安全一斉点検の日」とし、全職員が医療安全に関する実践状況について自己チェックを行う仕組みを導入し、職員一人ひとりの安全意識の向上に努めた。 医療用麻薬の管理及び取扱い方法を徹底するため、院内共通マニュアルを整備したうえ、教育研修や周知徹底を行った。また、新たに医療用麻薬の管理状況等の確認に特化した院内ラウンド（毎月1回）を実施する等、全職員へ医療用麻薬に対する適正な管理を意識づけた。</p> <p>○ インシデント・アクシデント件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インシデント</td> <td>3,661件</td> <td>3,765件</td> <td>3,273件</td> <td>3,474件</td> <td>3,344件</td> <td>▲317件</td> </tr> <tr> <td>アクシデント</td> <td>20件</td> <td>30件</td> <td>14件</td> <td>23件</td> <td>27件</td> <td>+7件</td> </tr> <tr> <td>総数</td> <td>3,681件</td> <td>3,795件</td> <td>3,287件</td> <td>3,497件</td> <td>3,371件</td> <td>▲310件</td> </tr> </tbody> </table> <p>感染対策マニュアルの改訂を行うとともにサイボウズ（院内職員共有イントラネット）で常時閲覧できる環境を整え、院内感染対策に努めた。 現場からの患者・職員の感染症発症時の早期察知と報告により、ICTの早期介入と現場の感染対策の強化に努めた。 季節性インフルエンザの院内アウトブレイク対策としては、12月から5段階のフェーズからなる警報レベルの管理を継続して実施した。また毎週、細菌検査室から院内分離菌情報の報告を受け、アウトブレイク等のリスク評価を実施した。 （※ICT：Infection Control Teamの略、感染防止対策チーム）</p>	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)	インシデント	3,661件	3,765件	3,273件	3,474件	3,344件	▲317件	アクシデント	20件	30件	14件	23件	27件	+7件	総数	3,681件	3,795件	3,287件	3,497件	3,371件	▲310件	IV		インシデントレポートの分析を行い、再発防止策を検討するなどの医療安全対策は評価できる。また、感染症発症時の早期察知と報告によるICTの早期介入などの感染防止対策の体制整備は評価できる。
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)																											
インシデント	3,661件	3,765件	3,273件	3,474件	3,344件	▲317件																											
アクシデント	20件	30件	14件	23件	27件	+7件																											
総数	3,681件	3,795件	3,287件	3,497件	3,371件	▲310件																											

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																											
		自己 評価	論 点	検 証 (案)																																											
	格取得に向けた支援を行い、医療技術者の充実による院内感染防止体制を整備する。		感染対策講演会の企画開催 (年2回)、感染対策に関する新規情報や院内の活動状況を掲載したICT通信の発行、院内ラウンド等を通じ、職員への教育および啓発活動に努めた。																																												
03	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 患者動向や周辺医療機関の状況などに応じ、地域医療支援病院として医療資源の活用を図ることができるように医療連携室の充実と診療体制の整備を図る。	IV	地域医療連携センターが中心となり、開業医への訪問活動、地域医療連携推進協議会 (年4回)、可児・東濃地域病病連携推進会議 (年2回、地域7病院)、地域連携クリニカルパス合同委員会、健康づくり講座等に取り組んだ。 健康づくり講座、医療連携交流会 (講演会及び開業医と当院医師の意見交換会) を開催し、地域の医療ニーズを聴取し、院内関係部門と情報を共有するとともに連携予約体制や地域連携パスの運用方法の検討等を行い診療体制を充実にも努めた。 外来において入院を予定している患者に対して、安心して入院医療を受けられる支援を行う等、入院支援の推進を図るため入院支援センターを設置した。		地域医療連携センターを中心に、開業医から地域の医療ニーズを聴取し、院内関係部門と情報共有を行うなど、診療体制の充実を図っている点は評価できる。																																										
			○ 医療連携予約の件数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>整形外科</td> <td>906件</td> <td>1,019件</td> <td>1,217件</td> <td>1,213件</td> <td>1,247件</td> <td>+341件</td> </tr> <tr> <td>神経内科</td> <td>713件</td> <td>871件</td> <td>880件</td> <td>818件</td> <td>870件</td> <td>+157件</td> </tr> <tr> <td>消化器内科</td> <td>1,413件</td> <td>1,738件</td> <td>1,675件</td> <td>1,715件</td> <td>1,922件</td> <td>+509件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8,793件</td> <td>9,604件</td> <td>10,028件</td> <td>10,732件</td> <td>11,115件</td> <td>+2,322件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11,825件</td> <td>13,232件</td> <td>13,800件</td> <td>14,478件</td> <td>15,154件</td> <td>+3,329件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)	整形外科	906件	1,019件	1,217件	1,213件	1,247件	+341件	神経内科	713件	871件	880件	818件	870件	+157件	消化器内科	1,413件	1,738件	1,675件	1,715件	1,922件	+509件	その他	8,793件	9,604件	10,028件	10,732件	11,115件	+2,322件	合計	11,825件	13,232件	13,800件	14,478件	15,154件	+3,329件		
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)																																									
整形外科	906件	1,019件	1,217件	1,213件	1,247件	+341件																																									
神経内科	713件	871件	880件	818件	870件	+157件																																									
消化器内科	1,413件	1,738件	1,675件	1,715件	1,922件	+509件																																									
その他	8,793件	9,604件	10,028件	10,732件	11,115件	+2,322件																																									
合計	11,825件	13,232件	13,800件	14,478件	15,154件	+3,329件																																									
			○ 訪問活動・健康づくり講座の実施回数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問活動</td> <td>61件</td> <td>44件</td> <td>17件</td> <td>100件</td> <td>20件</td> <td>▲41件</td> </tr> <tr> <td>健康づくり講座</td> <td>11回</td> <td>12回</td> <td>15回</td> <td>20回</td> <td>21回</td> <td>+10回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)	訪問活動	61件	44件	17件	100件	20件	▲41件	健康づくり講座	11回	12回	15回	20回	21回	+10回																							
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)																																									
訪問活動	61件	44件	17件	100件	20件	▲41件																																									
健康づくり講座	11回	12回	15回	20回	21回	+10回																																									
			○ 医療連携交流会 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度※</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院外参加者数</td> <td>－人</td> <td>－人</td> <td>－人</td> <td>35人</td> <td>68人</td> <td>－人</td> </tr> <tr> <td>院内参加者数</td> <td>－人</td> <td>－人</td> <td>－人</td> <td>40人</td> <td>50人</td> <td>－人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>－人</td> <td>－人</td> <td>－人</td> <td>75人</td> <td>118人</td> <td>－人</td> </tr> </tbody> </table> ※29年度から開始	項目	26年度	27年度	28年度	29年度※	30年度	増減(26→30)	院外参加者数	－人	－人	－人	35人	68人	－人	院内参加者数	－人	－人	－人	40人	50人	－人	合計	－人	－人	－人	75人	118人	－人																
項目	26年度	27年度	28年度	29年度※	30年度	増減(26→30)																																									
院外参加者数	－人	－人	－人	35人	68人	－人																																									
院内参加者数	－人	－人	－人	40人	50人	－人																																									
合計	－人	－人	－人	75人	118人	－人																																									

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																		
		自己 評価	論 点	検 証(案)																																					
04	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化 東濃・可児地域両市連携推進会議の開催等により地域医療支援病院として、次の取組をする。 ・近隣の医療機関との連携及び協力体制の充実による紹介・逆紹介の促進 ・急性期を脱した患者が病状に応じた医療が受けられるための病所連携・病診連携の促進	地域医療機関向けの講演会や、市民向けの健康づくり講座、医療連携交流会を通じて、近隣病院との役割分担の明確化と連携強化に努めた。また、多治見シャトル（かかりつけ医へ患者の診療予定日をお知らせする仕組み）については、訪問活動時等におけるPR活動により、利用件数が増加した。これらの取り組みにより、患者紹介率、逆紹介率ともに高い水準を維持することができ、地域医療支援病院としての要件を満たした。 外来待ち合いスペースに設置してある「医療連携登録医情報コーナー」を活用し登録医の情報を提供するとともに、地域の医療機関を検索可能な専用端末を常設し、患者が地域の登録医を手軽に検索できるようにした。	IV		多治見シャトルの利用数の増加が評価できる。																																				
		○ 多治見シャトル利用件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>526件</td> <td>702件</td> <td>1,082件</td> <td>1,682件</td> <td>2,043件</td> <td>1,517件</td> </tr> </tbody> </table>	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)	526件	702件	1,082件	1,682件	2,043件	1,517件																											
26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)																																				
526件	702件	1,082件	1,682件	2,043件	1,517件																																				
		○ 紹介患者のうち医療連携予約の割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>56.8%</td> <td>58.8%</td> <td>61.2%</td> <td>63.7%</td> <td>67.0%</td> <td>+10.2P</td> </tr> </tbody> </table>	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)	56.8%	58.8%	61.2%	63.7%	67.0%	+10.2P																											
26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)																																				
56.8%	58.8%	61.2%	63.7%	67.0%	+10.2P																																				
		○ 紹介率・逆紹介率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>69.3%</td> <td>65.7%</td> <td>75.7%</td> <td>76.2%</td> <td>75.1%</td> <td>+5.8P</td> </tr> <tr> <td>紹介実件数</td> <td>20,836件</td> <td>22,506件</td> <td>22,553件</td> <td>22,651件</td> <td>22,632件</td> <td>+1,796件</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>86.0%</td> <td>77.3%</td> <td>86.2%</td> <td>88.0%</td> <td>89.2%</td> <td>+3.2P</td> </tr> <tr> <td>逆紹介実件数</td> <td>19,472件</td> <td>17,796件</td> <td>17,325件</td> <td>17,437件</td> <td>18,246件</td> <td>▲1,226件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)	紹介率	69.3%	65.7%	75.7%	76.2%	75.1%	+5.8P	紹介実件数	20,836件	22,506件	22,553件	22,651件	22,632件	+1,796件	逆紹介率	86.0%	77.3%	86.2%	88.0%	89.2%	+3.2P	逆紹介実件数	19,472件	17,796件	17,325件	17,437件	18,246件	▲1,226件				
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)																																			
紹介率	69.3%	65.7%	75.7%	76.2%	75.1%	+5.8P																																			
紹介実件数	20,836件	22,506件	22,553件	22,651件	22,632件	+1,796件																																			
逆紹介率	86.0%	77.3%	86.2%	88.0%	89.2%	+3.2P																																			
逆紹介実件数	19,472件	17,796件	17,325件	17,437件	18,246件	▲1,226件																																			
05	3 がん医療 地域がん診療連携拠点病院として、手術、薬物及び高精度放射線治療装置等による先進治療の実施に努める。	高精度放射線治療センターを増改築し、2台の高精度放射線治療装置（ノバルスTx及びビトゥルービーム）が稼働できる環境を整備し、根治照射・予防照射・緩和照射等適応疾患を網羅しつつ、特徴を生かしたより先進的かつ効果的な放射線治療の提供に努めた。 化学療法センターを20床から24床に拡張整備したことで、外来化学療法件数も増加する等、地域がん診療連携拠点病院として先進治療の実施に努めた。 県内統一のがん地域連携クリニカルパスについてパスコーディネーターを中心に適用患者の増進に努めた。	IV		ノバルスTx及びビトゥルービームによる高精度放射線治療の充実が評価できる。																																				
		○ がん患者の状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>増減(26→30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>2,413人</td> <td>2,622人</td> <td>2,695人</td> <td>2,805人</td> <td>3,060人</td> <td>+647人</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>1,252人</td> <td>1,496人</td> <td>1,675人</td> <td>1,877人</td> <td>1,848人</td> <td>+596人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)	入院患者数	2,413人	2,622人	2,695人	2,805人	3,060人	+647人	外来患者数	1,252人	1,496人	1,675人	1,877人	1,848人	+596人																		
項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減(26→30)																																			
入院患者数	2,413人	2,622人	2,695人	2,805人	3,060人	+647人																																			
外来患者数	1,252人	1,496人	1,675人	1,877人	1,848人	+596人																																			

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●)、法人の自己評価年度計画に係る業務実績、法人の自己評価)						自己 評価	評価委員会の検証		
		論 点		検 証 (案)							
		手術件数	1,098 件	1,108 件	1,121 件	1,108 件	1,066 件	▲32 件			
		化学療法件数	入院	936 件	1,272 件	1,824 件	1,510 件	1,433 件	+497 件		
			外来	11,076 件	11,894 件	11,403 件	11,610 件	11,842 件	+766 件		
		放射線治療施行回数	入院	2,777 回	3,031 回	2,958 回	2,853 回	3,169 回	+392 回		
			外来	6,246 回	5,429 回	4,864 回	5,185 回	5,825 回	▲425 回		
		○ 高精度放射線治療システム (ノバリスTx及びトゥルービーム)									
		項目	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度(※)	増減(26→30)			
		患者数	203 人	264 人	307 人	344 人	471 人	+268 人			
		延べ件数	3,957 件	5,076 件	5,988 件	6,491 件	9,413 件	+5,456 件			
		(※) 平成30年度からトゥルービーム稼働開始									
12	1 公開講座、医療相談会等の開催 一般市民向けの公開講座や医療に関する相談会を定期的に開催し、保健医療・各種福祉制度に関する情報の提供や発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 一般市民向けの公開講座として、市民公開講座と緩和ケア市民公開講座を、医師や看護師が講師となり「健康づくり講座」を東濃5市及びび可児市内の公民館で開催した。 病院秋まつり等のイベントを通じ、地域住民に対して医療情報を発信した。 						III	地域ケア会議への参加や出張講演を期待したい。		
		○ 市民公開講座									
		項目	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度					
		テーマ	消化管（食べ物を通り道）のがん～その治療とサポート～	健康寿命を延ばそう！～生活習慣の改善と運動による健康づくり～	生活習慣病を理解して護ろう健康！	がん治療における放射線治療の役割					
		参加者数	316 人	70 人	122 人	127 人					
		○ 緩和ケア市民公開講座									
		項目	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度					
		テーマ	これからの生き方を考える～とらわれな い生き方～	ここまでできる！在宅医療～おとなりの地域の経験者たちにも聞いてみよう～	わたしのまちの在宅医療	いきたひ～看取り・命のバトン～					
		参加者数	435 人	171 人	359 人	281 人					
14	2 大規模災害発生時のDMATの派遣	熊本地震に対して、医療救護班として5名（内DMAT隊員4名）を、「こころのケア」に対する支援のため災害派遣精神医療チーム（DPAT：Disaster Psychiatric Assistance Team）として4名を派遣し、支援活動に従事した。						IV	熊本地震の際に行った、DPAT		

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
			自己 評価	論 点	検 証(案)
	大規模災害時に厚生労働省医政局や岐阜県の要請に基づきDMATを派遣し、積極的に医療救護の協力を行う。				派遣によるこころのケアに対する支援は先進的で評価できる。
15	<p>1 診療継続計画の作成及び訓練等による体制の整備 被災時における病院機能の損失をできるだけ少なくするため、機能回復を早急に行い、継続的に診療ができるよう診療継続計画の作成及び訓練等による体制を整備する。</p> <p>2 診療情報のバックアップシステムの構築 被災時においても診療情報が失われないよう、外部の場所にバックアップし、被災時に活用できるようにシステムの構築を図る。</p>	<p>災害対応マニュアルを改定整備し、全職員へ周知した。 県が岐阜富士通総研に事業委託し設立した岐阜県BCP研修・訓練センターの「個別コンサルティングによるBCP策定支援標準プログラム(全5回)」を活用し、診療継続計画(BCP)の策定に取り組み、平成30年度末には、当院としての非常時優先業務を必要な時間内に再開・継続及び開始するための基本方針、取り組み等を定めた診療継続計画書(BCP)を策定した。 関係機関と連携した災害実働訓練では、策定した「ミッションシート(非常時行動手順及び行動チェックシート)」の実証等、被災により病院機能低下状況下における災害医療実働訓練を実施した。</p> <p>大規模災害発生時に備え、医療現場において専用端末のみで患者情報が得られるよう、SS-MIXの情報が閲覧できるシステムを構築し、各部署へ端末を配備した。 集中豪雨等大雨による浸水被害を防ぐための対策工事を実施することで浸水に対する安全性を高め、東病棟電気室(地下1階)、中西病棟変電設備(1階)からの安定的な電気供給が可能となった。</p>	IV		BCPが策定されており、また、集中豪雨などへの対応も進められている点は評価できる。 被災時に、要介護者や在宅で医療機器を使用している医療依存度の高い患者を受け入れる体制の整備を期待したい。
19	<p>人事評価システムの構築 職員の業績や能力を職員の給与に反映し、職員の人材育成及び人事管理に活用するための公正で客観的な人事評価制度を構築する。 また、中期目標期間内に当該制度の円滑な運用を図る。</p>	<p>業務目標の達成成果(目標達成・成果)や、職務を遂行するうえで発揮した能力及び意欲・態度・姿勢(能力発揮・行動)等を評価する新たな人事評価制度を構築した。 病院全体の重点項目及び数値目標に対し、職員個人・部門組織等で目標を設定し、その貢献度により手当を支給する業務貢献手当を新設した。 業務貢献手当の支給決定には、人事評価の仕組みを活用する等、人事評価結果と業務貢献手当支給を関連付けし、職員個人・部門組織等の業務目標に対する達成意欲の向上を促し、病院全体の重点項目及び数値目標の達成を実現できる仕組みを整えた。</p>	IV		人事評価、業務貢献手当の新設は評価できる。
20	<p>事務部門の専門性の向上 病院特有の事務に精通し、法人の事務及び経営の中心となるプロパー職員を、計画的な確保と体系的な研修体制の整備により育成する。 また、診療報酬事務、病院経営等の</p>	<p>プロパー職員の採用を計画的に進め、病院経営等、病院事務に精通した外部人材の確保(経験者採用)に継続的に取り組んだ。 事務部門の専門・階層別研修に関する方針・計画を作成し、外部講師等を活用した研修を実施し、職員の資質向上に努めた。また平成29年度から新たに階層別マネジメント研修として、管理職員及びチーフ級職員を対象とした研修を実施した。 管理職、新任の管理職及び新任の主査チーフが、経営管理や人事・労務管理のための研修や中堅職員向けの公開講座等</p>	IV		プロパー職員の採用を計画的に進め、病院事務等に精通した外部人材の確保に継続的に取り組んだ点は評

項目 No.	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績 (今後の課題・問題点 (●))、法人の自己評価年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
			自己 評価	論 点	検 証(案)
	専門研修を実施し事務部門の総合的な専門性の向上を図る。	に参加した。			価できる。
27	3 院内保育施設の充実 育児中の職員のための病児保育、夜間保育等の更なる活用を推進する。	新保育施設の移転新築を進め、平成31年3月18日から新保育施設での保育を開始した。移転新築にあたっては、施設の定員を45名から60名に増員するとともに、企業主導型保育事業の院内保育施設として、企業主導型保育事業費補助金(整備費及び運営費)の助成申請を行い、助成決定を受けた。夜間保育、休日保育等の利便性向上にも引き続き努めた。	IV		保育所の移転新築にあたり施設の定員を増員するなど、院内保育所の充実は評価できる。
29	1 医療機器の計画的な更新・整備 県民の医療需要、費用対効果、医療技術の進展等を総合的に判断し、計画的な更新・整備を実施する。	地域がん診療連携拠点病院としての責任を果たし、地域から期待されるがん治療の推進に定めることを目的として、高精度放射線治療センターを増改築し、ノバリスTx(高精度放射線治療装置)に加え、トゥルービーム(高精度放射線治療装置)を導入し、それぞれの機器の特徴を活かした先進的かつ効果的な放射線治療が可能となった。	IV		ノバリスTx、トゥルービームの両者の特徴を活かした放射線治療を行っており、評価できる。